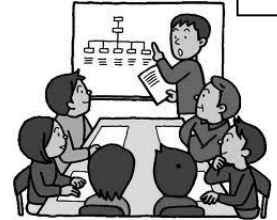


●第2回田老地区復興まちづくり検討会

◆開催概要

日時：11月25日(金) 13:30～15:45

場所：田老総合事務所3階3-1会議室 出席者：検討会メンバー19名



検討にあたっての情報提供

■地区復興まちづくり便りへの意見等について

皆様からお寄せいただいた復興まちづくりに関するご意見やご提言をお知らせし、検討を進めました。

■浸水深と建物被害の関係について

宮古市の建物被害は、浸水深 2m前後で被災状況に大きな差があり、2m以下の場合では建物が全壊となる割合が大幅に低下しています。

■防潮堤がない場合のシミュレーションについて

最悪のケースを想定し、防潮堤が破壊された時でも人命を確実に守れるようにするため、避難計画は防潮堤がない場合のシミュレーション結果をもとに検討を進めました。

■乙部山頂、古田地区への住宅地整備について

乙部、古田に新たな高台住宅地を整備した場合の計画イメージ図をお示しし、乙部では約 350 戸、古田では小中学校用地を含めて 900 戸の住宅地を造成することが可能であることをご説明しました。

出された意見のまとめ

土地利用の方針、道路、防災等の方針について、2班に分かれて検討した結果、以下に示すような意見が挙げられました。なお、出された意見をまとめるためには十分な議論が必要であるとの判断から、田老地区復興まちづくり検討会では、第3回地区復興まちづくり検討会の前に意見交換会を行い、議論を深めていくことに決定しました。

①土地利用の方針

国道45号の山側	嵩上げて可住地／広場のある商業地／商店が周辺を囲む広場のある(ヨーロッパの小さな街のような)エリア。そのまわりに住宅／商業地の集中利用、避難路と接続／嵩上げるより高床住宅
二線堤と国道45号の間	非可住地／地域イベント広場、公園／嵩上げし住宅地／1階は貫く構造にして可住地域／水を溜められるように嵩上げはしない(国道より山側嵩上げの場合)
大平地区(駅前)	嵩上げ住宅地／駅前商業地／嵩上げし駅もフラット
野中地区	農用地／製造業地等／集団農場、(株)農業／新産業の場所(民間の力を活用)／人が住めないように公園・池／津波の水を溜める／ソーラーパネルの設置／子ども達が海と親しめる場所／雇用を発生させる産業(新産業、養殖)
野原地区	漁業等の施設統一／水産業の団地化／水産加工団地／共同乾燥場は堤内地へ移転
乙部地区	住宅地を嵩上げ(ひな壇のように)／背後の山は高台住宅地
被災地域全体	流失地区は非可住地。高台へ集団移転／被災地区はできるだけ建物を建てず、静かな田畑や花畑
兄形地区	運動公園などを整備
青砂里地区	地盤を嵩上げし住宅地(ひな壇のように整備)
和野地区、末前地区	和野や末前にも移転
古田地区	南側の人、サラリーマンなど宮古に通う人は古田へ移転／海が見えない

②道路、防災等の方針

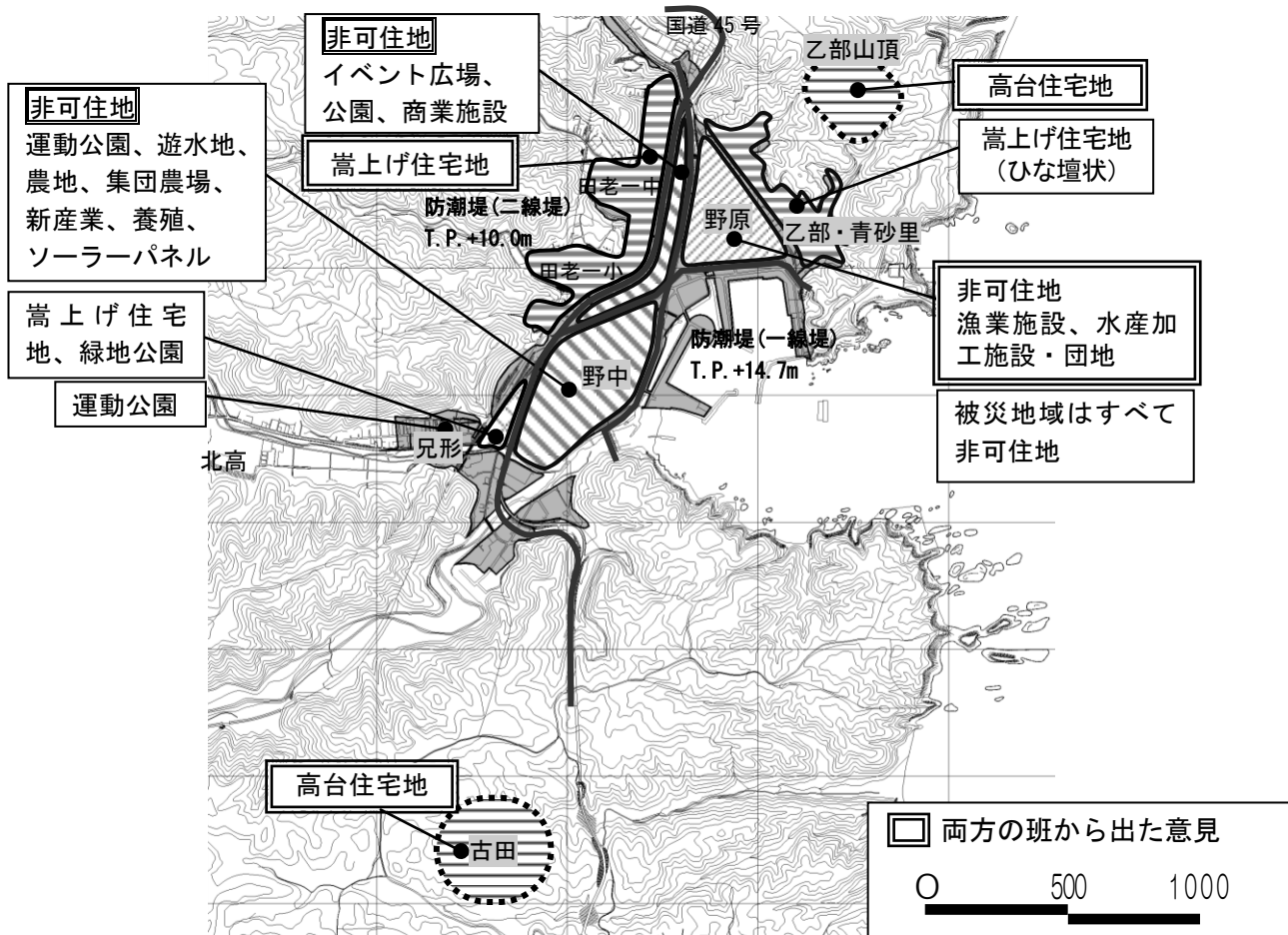
防潮堤の整備	三線堤の整備／防潮堤の交点をなくする／海上に防波堤／沖防波堤を強化／防潮堤は水門なし／水門は手動ではなく自動化／防潮堤に沿ってスロープをつける／防潮堤上部は拡幅し車両双方通行可とする／田代川の護岸を整備し、津波を田代川に流す／河川堤防の嵩上げ(津波を逃がす)
避難場所、避難タワー、ブリッジの整備	野中地区に5階以上の立体駐車場／乙部の中段(住宅地のすぐ上)に避難場所／野原地区堤外地に防災タワー
避難路・避難道	三鉄に沿って歩行者用道路／北道路につながる避難道
公園の整備	中学校の校庭をイベント広場／兄形地区に運動公園などを整備／二線堤より内側にイベント広場／田の沢の奥に広場
国道	国道は現状のルートでも良いが嵩上げ／海が見える高さ／田老トンネルから防潮堤と兼用の国道45号を通すか、避難路として生かす
主要道路	県道有芸田老線、中田地区の嵩上げ／乙部の道路を嵩上げ

③その他

鉄道・駅	駅は小学校付近に移動(駐車場)／グリーンピア付近に駅
施設	小・中学校は北高付近に移転／三王閣跡地か第一中学校地点に津波記念館
方針	便利なもの、電気・車に頼らない／居住地が分散してもいいのか

住宅・産業等の土地利用の方針について出た主な意見

土地利用の方針について挙げられた主な意見を図にまとめると以下ようになります。



道路・防災等の方針について出た主な意見

土地利用の方針について挙げられた主な意見を図にまとめると以下ようになります。

